

## 第25回 高山不動

第4支部三共商事(株)  
理事 小川秀一  
平成17年12月23日

年の瀬の12月23日、我々は一年間の厄を落とすべく、関東の名刹 高山不動尊へと向かった。忘年ハイキングに相応しい企画である。参加したメンバーは女性3名を含めた13名。今回は組合の役員が6名含まれている。厄を祓い、新鮮な気持ちで新しい年の組合運営にあたらうとする意気込みがヒシヒシと感じられる。私も家を出るとき「年末の忙しいときに何で登山なの?」という家族の素朴な疑問を背後に感じながらの出発であった。俗人には言っても分からない世界なのである。

高山不動尊は風水(ふうすい)的にどんなことになるかは分からないが、関東の北東に位置し、関東平野を南東に流れて東京湾へと注いでいる荒川の源流をなす高麗川(こまがわ)の上流にあたる。西武池袋線を池袋駅から快速急行で45分ほど西へ向かった所に飯能駅があるが、ここから西武秩父線へ乗り入れ、彼岸花の季節には多くの見物客で賑わう巾着田(きんちゃくだ)の最寄り駅として有名な高麗(こま)駅を含めて5つ目の西吾野(にしあがの)駅が今回の出発地点である。ここから山間を抜け、登っていくわけだが、この地域の歴史は7世紀まで遡る。また、昔から真言宗の荒修行の場で、毎年4月には火祭りがあり、荒行の名残をとどめる「火渡り」の行事があるという。

この西吾野駅で身つくろいを済ませ、さあ出発である。日本海側では大雪と聞かすが、こちらは朝もやの中、朝のやわらかい日差しを受けながら、しばらくは高麗川の支流に沿って緩やかに上りが続く。谷あいの杉林に囲まれ、冬の静かな山道を抜けて行くと、心は万葉の歴史の変遷に思いを馳せ、重厚な森林の空気に触れると敬虔な気持ちになって来る。

少しすると、それぞれの歩みで隊列は長くなってきた。以前は80キロあったと自ら語った体重を大幅に減量して参加されたE氏は、身が軽くなったせいか、最初から飛ばしぎみに歩を進め、組合の重鎮でありハイキングのベテランでもあるI氏とともに先頭グループを形成している(とにかくE氏は最後まで息を切らす様子もなく、このペースを崩さなかったのは“驚異”としか言いようがない)。続いて、カンボジアで若さをアピールされたM氏はここでも同様な強健ぶりで、先頭グループを捕らえている。また、大学教授の風貌をお持ちのU氏はどんなにきつい状況でも独特の低音で360度の話題を提供し、歩きながらも物事への批評と評価を怠らない。常にゆったりとした風格のある歩きである。そして、輝くような微笑みが印象的なIさんは今回が初参加。それにしても健脚である。やはり、寒さを意識されてか、

温度コントロールをしてくれると言うハイテクの服を身に着けての仲間入りである。毎回参加され、いつも周りの人へ優しい気配りを絶やさない仲の良いHご夫婦と、これまた優しい笑みを絶やさないオシドリ夫婦のWご夫妻はそれぞれに赤や白の上着と帽子でコーディネートした服装で一行に彩りを添えている。日頃はダントツのトップを行くリーダーのI氏は、さすがに今回の参加人数が多いせいか、シンガリに近い所に付き添い、間違いが起きない様に注意を払ってくれている。

われわれは途中、大滝(おおたき)に寄り道をして一休みを入れたが、2時間ほどで高山不動尊に到着した。この不動尊は頂の中腹にあり、境内は樹齢800年の大銀杏のある下の敷地とこれを見下ろす様に本堂のある上の敷地に分かれ、百数十段の階段がこれをつないでいる。もちろん上って本堂へ参拝する訳だが、疲れている所には心臓破りの階段に見える。この階段や境内は大晦日から正月ともなれば、多くの参拝客で溢れかえるのかも知れないが、まだこのお寺にそれを迎える緊張感はない。冬の陽光を浴びた境内はどちらかと言えばのどかな雰囲気だ。それぞれの思いをこめて参拝、一年の厄を入念に落とす。I氏は真新しい朱印帳を取り出し記念の押印を貰う。なかなか高尚な趣味をお持ちだ。

一休みの後、最後の力を振り絞り、山頂の関八州見晴台(かんはっしゅうみはらしだい)へ。見晴台で昼食なのだ。30分ほどの行程で山頂。ところで、この見晴台でのベーコンとスモークチーズは実にすばらしく美味しかった。大根田さん！差し入れ有難うございました。皆さん大満足でした。

昼食の後は生き返ったようだ。そんな訳で忘年ハイキングにはきついコースであったが、メンバー全員高山不動尊に詣で、澄みきった心を取り戻したハイキングであった。

下山道の足取りは軽い。飯能の忘年会場に引き寄せられるかの様に軽やかである。ヤマメが気持ち良さそうに泳ぐ溪流沿いに下っていく。なごやかに会話が弾む。先頭を切っているE氏・両I氏・U氏など(アルファベット順)の組合役員の面々からは組合の改革案がポンポン(ときには過激に)出され、来年の組合活動の活性化も太鼓判だ。ほどよい時間で全員元気に吾野(あがの)駅に到着。さあ、これからが本番！忘年会だ。思えば今年のハイキングに4回参加して来たのもこの忘年会場に来るがためと言っても過言ではない。(出席率が悪いと忘年会に参加できないと思っていたのだ)

忘年会場はHご夫婦馴染みのおすし屋さんである。愛想の良い店主さんの笑顔に迎えられ、二階の宴席へ。採算度外視の肉厚のお刺身が山盛り、ネタの種類も多い。とにかくネタが大きいなのなんの…。残念ながらこれ以上は次回の忘年ハイキングにご参加下さい。(ここでお土産用に受取った「ひもかわ」も大晦日に食べましたが、本当においしかった)

あっ、書き忘れていました。大事件があったのです。関八州見晴台付近で行方不明者を出してしまったのです。遭難された皆さん捜索不十分で済みませんでした。自力生還、おめでとうございます。「All's Well That Ends Well」(終わりよけれ

ば全てよし)」とシェークスピアも言っていますね。お許し下さい。

なに、許せない!?それでは、次回3月のハイキングに是非ともご参加下さい。存分に埋め合わせをしますから。本当です！！

そんなこんなは有りましたが楽しい一日でした。次回は鎌倉です。皆さん絶対に参加してくださいよ！